

中国の病院で医師交流

高山日赤 技術や知識教える



内視鏡を見ながら手術を実演する（左から）白子さんと佐藤さん＝中国・麗江市人民病院で（高山赤十字病院提供）

高山赤十字病院の内
科医、白子順子さん
（五七）と佐藤寛之さん
（四〇）が中国・麗江市の
病院を訪れ、内視鏡手
術の技術や知識を教え
た。二十八日、帰国し

た二人が同病院で活動
内容を報告した。
高山市と麗江市は友
好都市。二年前から国
際交流員として医師を
受け入れている。今年
一月まで同病院で研修
した。二十八日、帰国し

していた麗江市人民病
院の内科医の誘いで、
二十一～二十三日、二
人を派遣した。

白子さんはピロリ菌
の先端医療、佐藤さん
は早期胃がんの内視
鏡手術について講演。
白子さんは「質問が多
く、関心が高いと感
じた。学ぶ意欲が高
い」と振り返った。内
視鏡を使い、大腸ポリ
プの摘出も実演し
た。

交流は続けたい」と話
した。
（片山さゆみ）

地域医療 担い手確保を

県病院協医学会で意見交換

高山



医師や看護師などがさまざまなテ
マで発表した学会＝高山市千島町の
飛騨・世界生活文化センターで

第三十二回県病院協
会医学会が三十日、高
山市千島町の飛騨・世
界生活文化センターで
開かれた。

「ふるさとを守る医
療」人材確保をめざし
て」をテーマに、県内
の医療関係者ら約千三
百人が参加。五会場で
三百十七の研究発表が
あり、意見交換をしな

今年度の学会長を務め
た高山赤十字病院の棚
橋忍院長は「少子高齢
化で看護師や介護士な
どの不足が予想され
る。ふるさとを守るた
めには担い手を確保
し、医療を充実させる
ことが大切」と話し
た。

学会は県内八十九病
院でつくる同協会が毎
年主催。次期学会長は
岐北厚生病院（山県市）
の斎藤公志郎院長が務
める。
（戎野文菜）